就学児サポート調査票

児童氏名、生年月日を記入してください。

児 童 氏 名		生年月日	年　　月　　日

該当する部分を記入してください。

療 育 手 帳	□有 □無	Ａ ・ Ｂ	身体障害者手帳	□有 □無	級
□視覚障害　□聴覚障害(人工内耳　あり□　なし□)　□上肢障害　□下肢障害 □体幹障害　□内部障害　□その他（　　）					
特殊医療	□レスピレーター管理　□気管内挿管、気管切開 □鼻咽頭エアウェイ　□酸素吸入 □継続する透析(腹膜灌流を含む)　□定期導尿（３／日以上） □腸ろう・腸管栄養　□接続注入ポンプ使用(腸ろう・腸管栄養時) □吸引（１回／時間以上の頻回）　□吸引（６回／日以上の頻回） □ネブライザー６回／日以上または継続使用ＩＶＨ経管（経鼻・胃ろう含む）　□人工肛門				
遷延性意識障害	□自力移動が不可能である　□自力で摂食が不可能である □眼球はかろうじて物を追うこともあるが、認識できない　□声を出しても、意味ある発言は全く不可能である □意思疎通は不可能である　□排せつ失禁状態にある				

●次の項目で該当する状況のところに丸印をつけてください。
●一部介助の場合は、その状況を備考(具体例・頻度等)に記入してください。できたりできなかったりする場合は、
より頻度の高い方に印を付けその頻度等を備考(具体例・頻度等)に記入してください。
●記載する前の1か月間の状態を記載してください。
●通常の発達において必要とされる介助等は除きます。

1　日常生活関連動作に関する領域

項　目	右記の状態で該当する区分に○をつけてください。	状　態	備考(具体例・頻度等)
①食事行為	全介助	口から食べるが全面的に介助が必要	
		スプーンで食べるが、服や床にたくさんこぼす、手づかみで食べる。	
		経管栄養（胃ろう、腸ろう等）や中心静脈栄養を行っている。	
	一部介助	半分程度は直接の介助が必要	
		落ち着いて食べられず、食事を中断することが多い。	
		魚の骨取りや、大きなものを一口大にする必要がある。	
	自立	声をかけたり、時々様子をみる必要があってもほとんど一人で食べられる。	
②排せつ行為	全介助	常時おむつ	
		集尿器や畜尿袋（ストマ）、おむつ、尿とりパット等を使用したり、尿カテーテルを留置している。	
		「トイレへの移動、便座への座り」「服の上げ下ろし、排尿・排便行為」、「紙拭き」の一連の流れで全て介助が必要	
	一部介助	「トイレへの移動、便座への座り」「服の上げ下ろし、排尿・排便行為」、「紙拭き」のうち一部分で介助が必要	
		一人でトイレを済ませるが、周囲を汚してしまう。 汚れの拭き取りを自分ではできない。	
	自立	一人でトイレを済ませられる。周囲を汚しても自分で拭き取れる。	
③入浴行為	全介助	入浴できない。清拭してもらう。	
		自分でしたとしても洗えていないため、全面的に洗ってもらう。	
	一部介助	自分で洗ったとしても不十分なため、背中や髪など一部分を洗ってもらう。	
		直接手助けしてもらわなくても洗えるが、声かけが必要	
	自立	配慮しなくても、自分で洗える。	
④移動(屋内・屋外)	全介助	車いすやバギーを押してもらう。	
		屋外では飛び出しなど、常に手をつないでいないと危険がある。	
	一部介助	屋内では一人で移動できるが、屋外では声かけなど安全面での配慮が必要	
		階段で手を貸してもらったり、目的地がわからないので手を引いてもらう等部分的に介助が必要	
	自立	声かけや安全面での配慮がなくても、屋内外共に移動できる。	

※裏面もあります

2　行動障害及び精神症状に関する領域

	内容	選択項目（該当する状況に○）		
		0点	1点	2点
⑤コミュニケーション	自分の意思を伝達する。	支援が不要 ・多語文により意思表示ができる。	支援が必要な場合がある ・絵カードなどを用いるとコミュニケーションができる。 ・単語により意思表示ができる。 ・特定の人（保護者など）としかコミュニケーションがとれない。 ・吃音がある。	常に支援が必要 ・発語がないなど会話不能 ・おうむ返しや一方通行の会話 ・言葉で伝えることはできないが、行動でのみ自分　　の意思を伝えられる。
⑥説明の理解	他者の意思伝達を理解する。	支援が不要 ・言葉による説明で理解できる。	支援が必要な場合がある ・日常的なことは理解できるが、それ以外のことは言葉による説明では理解できない。 ・簡単な口頭での説明を聞いてうなづいたり返事をするが、その後の行動が伴わないことがある。 ・言葉による説明で理解できるが、一部絵で描く、具体物を見せるなどの支援が必要	常に支援が必要 ・理解していないまたは理解できているか判断できない。
⑦大声・奇声を出す	周囲が驚いたり、他者が迷惑となるような大声や奇声を出す。物などを使って周囲に不快な音を立てる。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑧異食行動	紙や石など食べられないものを口に入れたり、飲み込んだりする異食行動がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・飲み込みはしないが口に含むことがある	常に支援が必要 ・物があると口に含み、飲み込んでしまう
⑨多動・行動停止	多動があり、落ち着かず目的無くうろうろしたり、絶えず喋っている。体の一部を動かしている。特定の人や物事にこだわって動かなくなってしまう。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑩不安定な行動	予定や状況の変化が受け入れられず、突然大声を出し行動が不安定になる。パニックや理由のない感情の変化等の不安定さ（怒ったり泣いたり笑ったり）がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑪自らを傷つける行為	自分の体を叩いたり傷つける、頭を壁等に打ちつける、頭髪を抜く、手首を切る、多量の薬を服用する等がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・該当行為がある	常に支援が必要 ・常時見守りや個別対応などの配慮が必要
⑫他人を傷つける行為	他人を叩く、髪の毛を引っ張る、蹴るなど、他人を傷つける行為がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・該当行為がある	常に支援が必要 ・常時見守りや個別対応などの配慮が必要
⑬不適切な行為	急に他人に抱きつく、断りもなく物を持ってきてしまう、他人をのぞき込む、急に他人に接近する、場所をかまわず服を脱いだりなど、場に合わない行動をする。嘘をつく。意思が伝えられないために他人を叩いてしまう、物を投げる等。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑭突発的な行動	関心が強い物や人を見つけたら、突然そちらへ走っていってしまうなど、突発的な行動がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑮過食・反すう等	過食や過飲、拒食、極度の偏食がある。わざと吐き戻したものを再度食べる。アレルギー食、きざみ、ミキサー食など食に関する特別な配慮が必要。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑯てんかん	てんかん発作がある場合又はてんかん発作の薬を内服している。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・服薬はしていないが、てんかんの経過観察を行っている	常に支援が必要 ・薬で発作を予防している ・発熱時に抗けいれん座薬等で対応してい　る。
⑰そううつ状態	うつ状態のように気力が無くなり、悲観的に考えてばかりいたり、気分低下のため、いつものように考えをまとめることができなくなる。気分の高揚により次々と行動に移すが、失敗してしまい日常生活に支障がある。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑱反復的行動	再三の手洗いや繰り返しの確認（ドアの鍵閉めの確認、かばんの中身の確認など）で日常生活に時間がかかり支障がある。自分の気になることを何度も聞き返す。日常生活の中で決まったルーティを行わないと次の行動にうつれない。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑲対人面の不安緊張・集団生活への不適応	他者と交流することの不安や緊張のため外出できない。体調不良でもないのに、自室に閉じこもって何もしない。一定期間学校へ行けなかったり、事業所の中に入れなかったり家に引きこもっている。全くもしくは短時間しか集団参加ができず個別に対応が必要。	支援が不要	支援が必要な場合がある ・時々あるいは部分的に支援 ・月１回程度以上	常に支援が必要 ・通常又は習慣化している ・週１回程度以上
⑳読み書き	部分的な支援が必要 見守りや声かけなどの支援を要する。 全面的な支援が必要 「読み書き」の全てを自分で行えないため、全面的に支援（見守りや声かけ等の支援を除く）を要す	支援が不要	支援が必要な場合がある	常に支援が必要

以下は記入しないでください。

個別サポート加算（Ⅰ）点数	⑤～⑳	点

個別サポート加算（Ⅰ）（重度）	全介助数	

3　特記事項（行動障害及び精神症状に関する領域で1点以上に〇がついた場合は具体例を記載してください。）

項目	具体例（コミュニケーション：うまく自分の気持ちをことばで言えないので、他者の代弁が必要　等）
⑤コミュニケーション	
⑥説明の理解	
⑦大声・奇声を出す	
⑧異食行動	
⑨多動・行動停止	
⑩不安定な行動	
⑪自らを傷つける行為	
⑫他人を傷つける行為	
⑬不適切な行為	
⑭突発的な行動	
⑮過食・反すう等	
⑯てんかん	
⑰そううつ状態	
⑱反復的行動	
⑲対人面の不安緊張・集団生活への不適応	
⑳読み書き	